

科学文化センターのプラネタリウム事業

布 村 克 志

●プラネタリウム●

音楽が始まるとともにドームの中が暗くなり、一面にたくさんの星が輝きだします。外の天気にかかわらずいつでも星空が楽しめるプラネタリウムを見たことがある人はたくさんおられるでしょう。科学文化センターでもプラネタリウムは2階の展示室と並んで、多くの人がご覧になれます。

プラネタリウムは、人工の星空をうつす機械で、一日の星の動き、惑星が移動していく様子や世界のいろいろな所から見た星空などを再現することができます。また、星を投射する本体の他にドームの中やまわりに多くのスライド投映器があり、そこからたくさんの映像も同時にうつし出すことができます。そして、本体やこれら多くの付属投映器をコンピュータでコントロールして、動きのある見て楽しい演出ができるようになっています。

科学文化センターでは、これらの機器をフルに使って、星や宇宙について楽しく学べるように番組を制作しています。たとえば季節に応じた年4回の一般向け番組、小学5年生向けの学習投映、幼稚園児や保育園児向けの幼児投映などを自主制作して投映しています。また、これら定期的な番組の他にも、普及教育事業の1つとして、シンセサイザーコンサート、サイエンストーク、年3～



図1. プラネタリウム

4回のイブニングプラネタリウムなどの特別番組も制作しています。

●一般向け番組●

一般向け番組では、単に番組ごとにテーマを決めて星や星座の解説を行なうだけではなく、それぞれ登場人物を設定して、番組が1つの物語になるようしています。その物語の中でテーマとなる



図2. プラネタリウム番組ができるまで

さまざまな天体や天文現象の解説、その時に見られる星座などを紹介しています。

これらの番組は、3人の天文担当学芸員が持ち回りでシナリオを作っていますが、それぞれの番組の内容は、「SOS宇宙衝撃波」のようなSF風のものや、「星のメルヘン」のようなファンタジックなものが多く、アニメーションなどを多く使ってより動きのある演出になっています。また、取り上げるテーマも、プラネタリウムですから、「星空のラビリンス」などの星座や宇宙に関するものが多いのですが、「富山湾への招待」「季節はずれの蜃気楼」といった、富山県其自然にもとづいたテーマの場合もあります。

それでは、一般投映が出来るまでのようすを、漫画で紹介します。



「とやまの自然101」北日本新聞社より

●学習投映と幼児投映●

科学文化センターでは年4回の一般投映の他に、富山市内の小学5年生全員を対象にした学習投映を毎年秋に行なっています。5年生では学校で「星の動き」について勉強しますが、その内容に沿うように、学習投映では、北の星や東から昇る星の動きなどを説明し、夏と秋に見られる星座とそれにまつわるギリシャ神話の紹介をしています。

また、学習投映以外に6月中旬から7月中旬にかけての1ヵ月間ほど、「たなばた」の題名で幼児向けの投映も行なっています。この期間、平日の午前2回の投映を幼児投映に当てていますが、毎回ほぼ満員になり、多くの幼稚園や保育所などから利用されています。この番組では「織姫」と「彦星」の七夕の物語や夏の星空の紹介をしています。

これらの番組の他に、1日だけの特別番組として、音楽と映像を組み合わせた「七夕」「月よせて」「クリスマス」などのイブニングプラネタリウムや、雪について分かりやすく紹介したサイエンストーク「雪の結晶」、さらに夏には星とシンセサイザーの生演奏が楽しめるシンセサイザーコンサートなども開催しています。

科学文化センターでは、入館者のおよそ8割の人がプラネタリウムを見られますが、これからも皆さんにより面白くわかりやすいプラネタリウム番組を作ることを心がけています。



図3. 一般投映「大空をこえて」

(ぬのむらかつし 天文担当)